

# 令和6年度病害虫発生予察情報発生予報第15号(3月)

令和7年3月11日

発表：福島県病害虫防除所

○果樹の生育状況に注意し、防除が遅れないようにしましょう

果樹研究所による予測では、現在のところ各樹種の発芽は平年並の見込みです。ただし、仙台管区气象台が3月6日に発表した1か月予報によると、向こう1か月の気温は高い予想となっています。果樹の生育は直前の気温に影響を受けるため、生育が早まることも予想されるので注意してください。併せて、近年は春期の極端な高温により、病害の孢子飛散時期や感染時期、虫害の発生時期が早期化する事例が確認されています。そのため、こまめに気象情報や果樹情報（福島県農業振興課発行）を確認し、防除時期が遅れないように留意してください。

## 1 果樹

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
リンゴ	リンゴハダニ	全域	—	やや少ない	越冬卵が確認されたほ場の割合は、平年よりやや低かった（－）。	発芽1週間前までにマシン油乳剤を遅れないように散布する。 農業総合センター果樹研究所の「果樹の生育概況」（令和7年3月3日付）では、今後の気温が平年より2℃高く経過した場合は、リンゴ「ふじ」の発芽が3月25日頃で平年より2日早いと予測されている。
モモ	せん孔細菌病	中通り	—	やや少ない	春型枝病斑の発生予測モデルによると、発病枝率が2%以上となるほ場割合は、平年より低いと予測され、また、前年秋期の新梢葉での発生ほ場割合は平年よりやや低かった（－）。	春型枝病斑は見つけ次第せん除し適切に処分する。 開花直前及び落花直後の防除を徹底する。
	モモハモグリガ	中通り	—	やや多い	<b>越冬成虫が確認された発生地点割合は、平年より高かった（＋）が、果樹研究所による調査では平年並であった（±）。</b>	<b>初期の発生密度を抑えるために、第1世代幼虫発生期（落花10日後）にモスピラン顆粒水溶剤4,000倍を散布する。</b>
	シロカイガラムシ類	中通り	—	平年並	前年秋期の側枝寄生の発生ほ場割合は、平年並であった（±）が、「中」発生のは場も一部で確認されており、注意が必要である。	発芽前にマシン油乳剤を遅れないように散布する。 農業総合センター果樹研究所の「果樹の生育概況」（令和7年3月3日付）では、今後の気温が平年より2℃高く経過した場合は、モモ「あかつき」の発芽が3月25日頃で平年より1日遅いと予測されている。
	コスカシバ	中通り	—	やや少ない	前年秋期の発生ほ場割合は、平年よりやや低かった（－）。	発生が多い場合は、縮葉病防除後、開花前までに樹幹及び主枝にフェニックスフロアブル500倍を

						散布する。また、4月以降随時、幼虫を捕殺する。
ナシ	<b>黒星病</b>	県北 県中・ 県南 <b>浜通り</b>	— — —	平年並 やや少ない  <b>やや多い</b>	ナシ黒星病の秋型病斑の発生ほ場割合は、県北では例年並（±）、県中・県南ではやや低い（－）、 <b>浜通りはやや高い（＋）</b> 状況でした。なお、 <b>浜通りで発生がみられたのは、いわき市のみなので、いわき市では特に注意が必要である。</b>	<b>発芽 10 日前までの温暖無風の日に石灰硫黄合剤を散布する。なお、発芽 1 週間後以降の生育期の防除は、天候や生育状況に注意しながら、防除タイミングを逸しないように実施する。</b> <b>農業総合センター果樹研究所の「果樹の生育概況」（令和 7 年 3 月 3 日付）では、今後の気温が平年より 2 °C 高く経過した場合は、ナシ「幸水」の発芽が 3 月 31 日頃で平年より 1 日早いと予測されている。</b>
	ハダニ類（リンゴハダニ・クワオオハダニ）	中通り 浜通り	— —	平年並 やや少ない	越冬卵が確認されたほ場の割合は、中通りで平年並（±）、浜通りで平年よりやや低かった（－）。	発生が多い場合は、石灰硫黄合剤に代えてマシン油乳剤を散布する。ただし、樹勢低下した樹には使用しない。

注) 予報の根拠の中で（＋）は多発要因、（－）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

○注意が必要な病虫害

果樹共通	<p><b>■カメムシ類</b></p> <p>令和 6 年 10～11 月に、クサギカメムシの越冬个体数を調べるため、むしろトラップによる調査を実施した。その結果、越冬量は、県北地方の福島市では平年より少なかったが、桑折町は平年より多かったため、今春の越冬世代の発生には注意する。会津若松市では平年より多かったため、今春の越冬世代の発生には注意する。いわき市では平年並の状況であった。なお、冬期の低温による死亡や春期の気温によって発生動向は左右されるので、令和 7 年に実施するフェロモントラップ調査も参考にして、発生動向に注意する。</p> <p>チャバネアオカメムシは、越冬調査を行っていないため、今後の予察予報など各情報から、発生動向に注意する。</p> <p>ツヤアオカメムシについては、昨年秋期の発生が中通りや会津で多かった。本種は耐寒性が低く、いわき市での越冬は確認されているものの、中通りや会津において越冬可能かは不明であるため、発生動向に注意する。</p>
果樹共通	<p><b>■カイガラムシ類</b></p> <p>ナシマルカイガラムシの寄生や果実被害が、特にリンゴで確認されることが多くなっており、一部ではモモでの被害も確認されている。</p> <p>発生が多いほ場では、ワイヤーブラシなどで越冬部位をよくこすり落とす。また、発芽前のマシン油乳剤の散布の効果が高いので、必ず防除を実施する。ただし、樹勢が低下したナシには使用しない。</p> <p>詳細については、令和 6 年 12 月 12 日発行の<b>病虫害防除対策（カイガラムシ類）</b>参照。  <a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/663137.pdf">https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/663137.pdf</a></p>

より詳しい発生状況や防除対策は、

福島県病虫害防除所ホームページ<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>をご覧ください。

お問い合わせは TEL:024-958-1709、FAX:024-958-1727 または e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp へお願いします。

※農薬の情報は、令和 7 年 3 月 1 日時点の情報です。

※農薬の使用にあたっては、農薬ラベルを必ず確認してください。